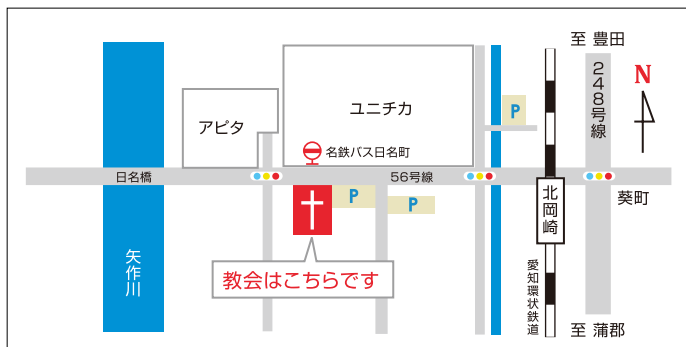


BIBLE + MESSAGE

ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

(ヨハネ 1 章 14 節)

この聖書の御言葉は、クリスマスのお祝いが、どのような出来事を背景として行われるようになったのかをあらわしています。「ことば」とは神の御子キリストを指しています。つまり、神であられる御方が、私たちと同じ人間となって、私たちが住むこの地上へと降りて来てくださったと聖書は教えているのです。神がわざわざ人間になられた目的は何だったのでしょうか。それは、罪に悩み苦しむ人々を救うため、全人類の罪の身代わりとなって、十字架の上で死ぬためであったと聖書は教えています。神が人となってくださらなければ、私たちの救いはどこにもありません。クリスマスとは本来、私たちが救うために、神なる御方が人となって地上に降りて来てくださったことを感謝するお祝いなのです。



- ◆名鉄バス「日名町」前
- ◆愛知環状鉄道「北岡崎駅」から西へ徒歩3分
- ◆アピタ北岡崎店 筋向かい



スマホで上記のQRコードを読み込むと地図を表示できます。

【日曜学校】日曜：午前 10 時～ 10 時 45 分 【礼拝】日曜：午前 11 時～ 12 時半
【午後の集会】日曜：午後 3 時～ 4 時半 【聖書研究会】木曜：19 時半～ 21 時

聖書を読んだ日本人

淵田美津雄は、海軍軍人からキリスト教の伝道者となった人物です。淵田が信仰を持ったきっかけは、太平洋戦争が終わった後に、アメリカに捕えられていた日本軍の捕虜から聞いた話でした。

彼のいたキャンプでは、一人のアメリカ人の娘が日本軍の捕虜たちにとっても親切にしてくれたそうです。彼女の献身的な看護に、捕虜たちは尋ねました。「お嬢さん、どうしてそんなに親切にしてくれるのですか？」。すると彼女は意外な返事をしたのです。「私の両親が日本軍によって殺されましたから」。両親が殺されたから親切にするとするのは、おかしな話です。淵田は捕虜の語る話に聞き入っていました。

彼女の両親は宣教師で、フィリピンにいたそうです。しかし、日本軍がフィリピンを占領したため両親は山中に隠れていました。そんなある日、日本軍は彼らを発見し、スパイだと疑って殺そうとするのです。そのとき両親は「私たちはスパイではない。しかし、どうしても斬るというなら、死ぬ支度をしたから三十分の猶予をください」と答えました。そして彼らは与えられた三十分の間に聖書を読み、祈ってから殺されたのです。両親の死を聞いた彼女の心は、日本人に対する怒りと、深い悲しみの思いでいっぱいでした。しかし、ある日の夜、両親が殺される前の三十分、何を祈っていたのかを考えた時、彼女の心は憎し



淵田が受け取ったデシーザーのパンフレット

みから愛へと変わったと言うので。淵田は彼女の心境の変化を理解することができませんでした。しばらくの月日が流れたある日のこと、淵田が渋谷駅を歩いていると、一人のアメリカ人が道行く人々にパンフレットを配っていました。そのパンフレットには「私は日本の捕虜でありました」と書かれています。そこには、アメリカの軍人であるデシーザーという人が書いた手記が書かれていたのです。(次号に続きます)



淵田 美津雄
(ふちだ みつお)

1902年～1976年